

町民ライターに突撃取材！

子育て支援ナビ「かいせいっこ」の立ち上げに関わり、町民ライターとして記事も掲載した、田中さん、高橋さんをあらためて取材します！
お二人は町外出身。結婚を機に開成町で子育てをスタートしたそうです。お二人はどんな思いで町民ライターを引き受けられたのでしょうか？

企画政策課 ☎84-0312



Interview



- ①町民ライターを引き受けた理由は何ですか？
- ②開成町のいいところと、希望などがあれば教えてください！
- ③子どもや子育てに対する思いは？

- ①子育ての情報を持っていないうえ、つながりも少ないなかで、町に関わりたい、もっと情報がほしいと考えたからです。
- ②自然豊かで、買い物など生活も便利なお店が好きです！
- ③いろいろな経験を積んでほしいです。子育て中のママ友と、もっとつながりたいです。



田中 博子さん (右)
高橋 一忠さん (左)

- ①広報から得る情報はとても多いですが、ウェブサイトはより手軽に子育て情報にアクセスできるので、興味を持ちました。
- ②田舎モダンで子育てに最適なお店。今後娘が公園で遊ぶことを考えると、安全な場所であり続けてほしいです。
- ③子どもにはのびのびと育ててほしいです。ママ同士のつながりも、もっと増えるといいですね！



高橋 美紀さん

コロナ禍での子育ての大変さを実感しました。そのようななかで町民ライターを引き受けていただいた、ママのすてきさんでした！



子育て支援ナビ かいせいっこ



「かいせいっこがオープン」の記事はコチラ

取材後記

田中さんは1歳半のお子さん連れでのインタビューでした。途中で息子さんが飽きてしまい、スマホをお子さんに渡してしばしの間ご機嫌とり。すかさず「教科書どおりの子育てじゃなくてもいいですよ。ママが疲れきってしまうよりもね。」

そんな高橋さんの言葉がけに僕の心もほっこり。開成町で、みんなで助け合ったり励まし合ったりの子育て。とってもいいですね！
まちづくり情報特派員 小田 猛

がんばったね♪



開成町のお名前ウンチク

衝撃事実！「紫陽花」はライラックのことで、「シイガシ」という名前の木はない！？

町の花といえば「アジサイ」、町の木は「シイガシ」であることをご存じの方も多はず。「アジサイ」は日本原産の低木で、万葉集には「安治佐為」「あぢさゐ」という表記で登場します。漢字で使用される「紫陽花」は、中国・唐時代の詩人である白居易が、とある寺院にあった花を詠んだもので、日本の「アジサイ」とは異なり、一説によるとライラックの花ではないかと言われています。現代の「アジサイ」が「紫陽花」と表記されるようになったのは、平安時代。ある歌人が、紫陽花を日本古来のガクアジサイのことだと思込み、以後、当て字で「あじさい」と呼ぶようになりました。



もう一方の「シイガシ」は、一般にブナ科クリ亜科シイ属の樹木の総称のことです。その中の「スタジイ」と、同じブナ科の「シラカシ」が町内に多く自生していたことから、合わせて「シイガシ」を町の木にしたのではないかと推測されています。



ライラック



スタジイ

数百年続く結束、「一統会」とは



一統会（一戸会、一斗会）は、同じ苗字を名乗る一族でつくられる相互扶助の団体で、町では特定の名前ごとにある（あった）とされています。中でも、いまだに交流が盛んなのが金井島の「内藤一統会」。金井島の山王供養塚にある石碑には、「内藤家発祥の地」の文字が刻まれていて、一説によると、内藤一族が金井島に定住したのは鎌倉時代からとも言われています。内藤一統会の内藤督雄さんと内藤博人さんに詳しいお話を伺いました。



地区の小字の名前も「山王供養」

内藤 督雄さん (本家)

内藤一族の発祥は定かではありませんが、かつて「山王」という地域があり、そこに内藤家の集落があったそうです。酒匂川の氾濫によって住めなくなってしまいましたが、後に一統会によって記念碑が立てられました。内藤一統会は現在9軒残っていて、内藤家としては、私で13代か14代目と言われています。



内藤 博人さん (分家)

一統会と正式に名乗りだしたのは昭和の時代からです。「無尽講」（民間の金融組合）の役割もあり、昔からお金を出し合って、順番に農機具を購入するなどの助け合いが行われていたようです。コロナ禍で活動できていませんが、冠婚葬祭はもちろんのこと、例年はみんなで旅行をするなど、交流が続いています。

